

第3学年 国語科学習指導案

平成19年10月3日(水)

指導者 五十嵐 加代子

1、単元名 「戦争のお話を読もう」 (教材文「ちいちゃんのかげおくり」)

2、単元のねらい

会話や動作を表す言葉をもとにしながら、場面の様子や移り変わり、情景、登場人物の様子や心情について想像して、戦争時を描いた作品をじっくり読み、作品にひたる。

3、評価規準

【関】言葉や表現に即して、場面の様子やその移り変わりを想像しようとしている。

【読】会話や動作を表す言葉をもとにして、情景を想像しながら読んでいる。

【読】場面の様子がよく分かるように声に出して読んでいる。

4、児童と単元

(1) 児童の実態 (略)

(2) 単元について

本単元は、教科書教材としては初めて出会う戦争下状況の文学「ちいちゃんのかげおくり」を中心教材として学習していく。児童の実態でもふれたが、子どもたちは、「戦争」という言葉や今でもどこかで戦争があること、怖いこと、人が死ぬことなどは漠然と知ってはいるが、戦争時の様子はよく分かっているとはいえない。本単元では、「ちいちゃんのかげおくり」の学習をとおして、戦争についてのお話に興味を示し、他のお話を進んで読み進め、友だちやほかの人などに紹介する活動へとつなげていきたい。読書の好きな子どもたちに、日ごろあまり手にしない戦争のお話を読む機会にし、さらに読書の幅を広げる単元にしたい。

教材「ちいちゃんのかげおくり」は、主人公が幼い女の子であり、父、母、兄とのかかわりを中心に書かれているので、3年生には感情移入しやすい作品である。特に母親との結びつきは強く、子どもたちは、迷子になったときや一人で寝るように言われたときのたとえような心細さなど、自分の経験と重ねあわせ、「ちいちゃん」に寄り添って読み進めることができるであろう。家族そろってした初めての「かげおくり」、ちいちゃんとお兄ちゃんが一緒に遊んだ「かげおくり」、ちいちゃんがたった一つのかげぼうしを見つめながら数を数える「かげおくり」の3つのかげおくりの情景を思い浮かべ、場面を比べながら読ませることで、戦争時の人々の置かれた状況、言いようのないむなしさ切なさを感じさせたい。

しかし、焼夷弾や空襲などの様子は、文からだけではなかなかイメージできないであろう。

そこで、場面の様子を想像しながら読むためには、ある程度の戦争時の状況を知っておくことが大切と考える。焼夷弾や空襲などについてイメージできると、教材の読み取りもより想像豊かに読めると思われる。少しでも、戦争の状況を理解するために、長岡戦災資料館に行き、焼夷弾を実際に見たり、空襲の映像や焼け野原の姿を見たり、空襲時の様子を体験者からお聞きしたりしてくる活動を組み入れる。

教材文をていねいに読み、かげおくりをするときの状況や人物の気持ちをしっかりとらえ、想像させていくために、思ったことや想像したことを教材文に書き込み、言葉を手がかりに登場人物の気持ちを話し合う活動をとっていく。学習課題に対して、文中の言葉からわけを考えながら自分の考えをもち、友だちとの考えを交流させていく。1～2名の考えを聞いて納得するのではなく、「私は、この言葉からこう思う。」と手がかりになる言葉や文をあげて、それぞれの読みをかかわらせて話し合うことで、より一人ひとりの読みが深まるであろう。学習初めに書いた感想の内容より、学習後半に書く感想の中味が、豊かな感想になることを期待する。

「ちいちゃんのかげおくり」を学習したことをきっかけに、戦争について考える機会にしたい。そこで、単元の中に、戦争に関するお話の本をいろいろ読む活動を組み入れる。読書することで、子どもたちは心が揺さぶられ、登場人物の戦争時の思いを見つめることであろう。読み進める中で、戦争の悲惨さや理不尽さを認識し、平和を願う気持ちを育んでくれることを期待したい。

(3) 単元の構想（手だて）

◎本単元における期待する主体的な学びの姿

- ・ 意欲的に戦争に関連した読み物を読もうとすることができる。
- ・ じっくりと書き込みをする。
- ・ 根拠となる文や言葉をもとに、自分の考えを自分から話す。
- ・ 友だちの考えをよく聞き、反応する。
- ・ 学習を生かし、場面の様子や登場人物の気持ちを考えながら工夫した音読をする。

「主体的に学ぶ」ために

- 3年生の物語教材では、場面の様子や情景、登場人物の心情を、叙述をもとに想像させることが大切である。そのために、教材文をじっくり何回も読ませる。ただ読むだけでなく、行間の開いた教材文を用意し、文中の言葉から想像すること、考えたこと、疑問に思ったこと登場人物の思いなどを書き込ませる活動を取り入れる。そうすることで、教材文をていねいに読み、自分から教材文に深く向き合っ読もうとする意識が生まれるであろう。そして、書き込みをしながら、場面の様子や情景、登場人物の心情を自分なりに想像することができるだろう。また、学級で話し合い活動をしていく上で、自分の考えや思いをはっきりさせ、進んで話し合いに参加することができるであろう。
- 場面の様子や情景をよりよく理解させるために、実際に「かげおくり」を体験する。
- 戦争時の状況や空襲について理解を深めることは、この教材文を想像豊かに読むために欠かせない。子どもの実態からも戦争について学習することは大切と考える。そして、「ちいちゃんのかげおくり」の学習が戦争や戦争のない今の日本の平和について考える機会にし、さらに戦争に関するお話を読み進めることへつなげたい。そこで、長岡の戦災資料館に行き、館内の展示資料を見たり、実際の戦争体験をお聞きしたりする見学学習を行う。
- 戦争に関する本をなるべく多く、教室に置き、いつでも読める環境にする。単元の後半に、自分の気に入った戦争に関するお話を本を紹介する活動を行うことを投げかけておき、意識を高めさせる。

「かかわり合いながら考えを深める」ために

- 個々の書き込みから生じた考えのずれを生かし、課題をつくり、課題についての自分の考えを文中の言葉を証拠にしなが話し合い活動を進める。自分の考えをはっきりさせ、話し合いに参加させるためにもしっかりと自分の書き込み教材が重要である。自分の考えは、必ず、本文に書かれていることから想像させ、わけをしっかりと話させながら、話し合い活動を進めていきたい。
- 話し合い活動で、友だちの考えを聞いたり、自分の考えを言ったりしながら、「おかしいな。」「自分の考えはちがうかな。」などと自分の考えを振り返らせたり、友だちの考えに意見を言ったりしながら、より深い読みをさせたい。
- 課題に対して、自分の考えと友だちの考えの相違点を常に考えさせるようにしていきたい。「だって」「だけど」「でも」「少し似ているけど、〇〇のところが違う。」「大体同じだけど、〇〇のところが違う。」などという発表をさせたい。
- 話し合い活動では、友だちの考えに反応をしめさせる。うなづく、ハンドサインを送る（グー：意見、つけたし：人差し指をさす、似ている：ピースなど）拍手などで示し、話をした友だちにかかわらせる。
- お互いの考えの同異が分かるように、ネームプレートを活用し、かかわりあいの生まれるような板書を工夫する。

4、 指導計画（全15時間 本時 11/15）

次	学習活動と基礎・基本（太字）	評価規準		
		関	読	
一 5時間	<p>○題名から想像することやどんな話なのか予想したことなどを書く。初発の感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題名「ちいちゃんのかげおくり」の言葉や予想される話の内容などについて書く。 ・全文を読み、初発の感想を書く。 ・各自で教材文を読み、分からない言葉の意味を調べたり、言葉から自分が想像したことなどを書いたりする。 ・音読練習をする。 <p>・長岡戦災資料館に見学に行き、空襲や焼夷弾、そのときの様子などを知る。</p>	◎	○	<p>【関】題名から想像することを書いている。</p> <p>【関】教材文を読んで、感想や話の内容を書いている。</p>
二 8時間 本時 6 ／ 8	<p>○場面ごとに、場面の様子や情景、登場人物の気持ちを読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉から想像すること、考えたこと、疑問に思ったことなどを自由に書き込む。 ・第1場面を読み、家族4人で行った「かげおくり」の様子や4人の気持ちを読み取る。 ・第2場面を読み、空襲の空の下で家族と離れてしまったちいちゃんの気持ちを読み取る。 ・第3場面を読み、家にもどったちいちゃんの様子や気持ちを読み取る。 ・第4場面を読み、1場面で行った「かげおくり」との違いを考えながらちいちゃんが一人で行った「かげおくり」の様子やちいちゃんの気持ちを読み取る。（本時） ・第5場面を読み、今までの段落との場面の違いを読み比べ、平和なくらしの様子を読み取る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 場面の移り変わりや情景を、叙述をもとに想像しながら読む。 ・ 読み取った内容について自分の考えをまとめ、一人ひとりの感じ方について違いがあることに気づく。 ・ 書かれている内容や場面の様子が分かるように声に出して読む。 	○	◎	<p>【読】会話や動作を表す言葉をもとにして、場面の様子や情景、登場人物の気持ちを想像しながら読んでいます。</p> <p>【読】読み取った内容について自分の考えを、友だちの考えと比べています。</p>
三 2時間	<p>○戦争のお話についての本から、自分の気に入ったお話を紹介したり、読み聞かせたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気に入った本を選び、誰にどんなふうに伝えたいか考え、伝える方法を工夫する。 ・伝える相手を意識して、紹介文を書いたり読み聞かせの練習をしたりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな読み物に興味をもち、読む。 ・ 書かれている内容や場面の様子が分かるように声に出して読む。 	◎	○	<p>【関】戦争のお話についての本を進んで読み、気に入った本を選び紹介しようとしている。</p> <p>【読】場面の様子が分かるように声に出して読んでいます。</p>

7、本時の計画（本時 11/ 15）

(1) 本時のねらい

一人ぼっちでかけおくりをするちいちゃんの様子や願いから読み取ったことを友だちの考えと交流させながら、家族の大切さや戦争がもたらす悲しさを読み取る。

(2) 本時の展開

分節	学習活動	教師の働きがけと予想される児童の反応	留意点、【 】評価規準、□はねらい達成のための支援				
1 10分 課題をつかむ	本時の場面の時や所、登場人物を確認する。	<p>T, 前の時間の学習は、どんな場面でしたか。</p> <p>C, ちいちゃんが、焼け落ちた家のあとに残り、母や兄の帰りを待ち続ける場面。</p> <p>C, ちいちゃんが一人で、こわれかかったぼうくうごうの中ですごした場面。</p> <p>T, 今日は、そのつづきでしたね。ちいちゃんの言ったことやしたことに着目しながら音読しましょう。</p> <p>C, 第4場面を音読する。</p>	<p>・前時までの学習の様子が分かるように掲示しておく。</p> <p>・前の時間の学習を振り返りながら、本時の場面の時や所、登場人物を確認する。</p>				
2 30分 かかわり合い練り上げる	自分の考えと友だちの考えを交流し、深める。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; width: fit-content; margin-left: 20px;"> かけおくりでちいちゃんが家族と会えたことは幸せだろうか。 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> 待っていた家族に会えて幸せだと思う。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> ちいちゃんが死んでしまうのだから幸せではない。 </div> </div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> C, お父さんの声やお母さんの声、お兄ちゃんの声が空から聞こえて、今まで一人だったのに、家族と一緒にかけおくりができて幸せだと思う。 </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> C, 「ちいちゃんは、きらわらいだしました。」と書いてあるので、うれしくて、幸せだと思う。 </td> </tr> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> C, ちいちゃんは、おかあさんやお兄ちゃんに会いたくて、一人でこわれかかったぼうくうごうで待っていたのだから、家族に会えたのは幸せ。 </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> C, 「ちいちゃんは、ふらふらする足をふみしめて立ち上がる」とあるから、ふらふらしても家族との思い出のかけおくりをしたかった。家族と一緒にいることがちいちゃんの幸せではないか。 </td> </tr> </table>	C, お父さんの声やお母さんの声、お兄ちゃんの声が空から聞こえて、今まで一人だったのに、家族と一緒にかけおくりができて幸せだと思う。	C, 「ちいちゃんは、きらわらいだしました。」と書いてあるので、うれしくて、幸せだと思う。	C, ちいちゃんは、おかあさんやお兄ちゃんに会いたくて、一人でこわれかかったぼうくうごうで待っていたのだから、家族に会えたのは幸せ。	C, 「ちいちゃんは、ふらふらする足をふみしめて立ち上がる」とあるから、ふらふらしても家族との思い出のかけおくりをしたかった。家族と一緒にいることがちいちゃんの幸せではないか。	<p>・すぐに考えが出ないときや、話が詰まったときには、グループでお互いの考えを聞きあう時間を設け、自分の考えをはっきりさせる。</p> <p>・「幸せ」「幸せでない」のどちらともいえない、どちらなのかよくわからないと思う子の意見も大切にし、「なぜそう思うか」「本文のどこからそう思うのか」などの考えのわけをはっきりさせ、話し合いでかわらせていく。</p> <p>・友だちの考えを聞いて、自分の考えが変わってもよいが、なぜ変わったのかを言えるようにし、自分の考えを深めさせる。</p> <p>・ネームプレートの活用と板書の工夫によって、誰がどんな考えか、誰の考えと似ているか、証拠の文は何かなど分かるようにし、話し合いが友だちとかかわれるようにする。</p> <p>・1場面の家族4人でしたかけおくり、お兄ちゃんとしたかけおくりとの違いにも目を向けさせ、この場面でのかけおくりをするちいちゃんの状態、心情を考えさせる</p>
C, お父さんの声やお母さんの声、お兄ちゃんの声が空から聞こえて、今まで一人だったのに、家族と一緒にかけおくりができて幸せだと思う。	C, 「ちいちゃんは、きらわらいだしました。」と書いてあるので、うれしくて、幸せだと思う。						
C, ちいちゃんは、おかあさんやお兄ちゃんに会いたくて、一人でこわれかかったぼうくうごうで待っていたのだから、家族に会えたのは幸せ。	C, 「ちいちゃんは、ふらふらする足をふみしめて立ち上がる」とあるから、ふらふらしても家族との思い出のかけおくりをしたかった。家族と一緒にいることがちいちゃんの幸せではないか。						

		<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>C, かげおくりをすることで家族に会えたのはうれしいことだけど、死んでしまったのだから、「幸せ」とは言い切れない。</p> <p>C, ちいちゃんは、家族に会えて「幸せ」と最初は思ったけれど、〇〇さんの話を聞いて、戦争で家族がみんな死んでしまったことは「幸せ」ではないと思った。</p> <p>C, 友だちの考えを聞いていたら、ちいちゃんにとっての幸せは、家族と一緒にいることなんだと思った。でも、死んでしまい、かわいそうだ。</p> </div>	<p>ようにする。</p> <p>【読】書き込みしたことをもとに自分の考えを発表したり、友だちの考えを聞いたりしながら、ちいちゃんの様子や願いを想像することができる。 (書き込み、発言、表情)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>ちいちゃんの様子やしたことが分かる文と一緒に見つけ、ちいちゃんの気持ちを考えさせるようにする。</p> </div>
3 5分 ま と め る	学 習 の ま と め を す る。	<p>T, 今日の学習の振り返りを書きましよう。</p> <p>C, ちいちゃんの強い思いがあったから、空の上で家族に会えたのだと思う。死んでしまったけど、家族に会え、一緒になれたのはよかった。空で家族4人でかげおくりをしているかもしれない。</p> <p>C, かげおくりは家族の思い出だから、死ぬ間際にお父さんたちの声が聞こえてきたのではないか。</p> <p>C, 家族4人は死んで空で会えたけど、生きてはもうかげおくりをすることはできないなんて、悲しいことだ。</p> <p>C, ちいちゃんにとっては幸せだったかもしれないけど、戦争で死んだ人がたくさんいることは、決して幸せとは言えない。戦争は本当に悲しいことだと思う。今、ぼくたちは戦争がなくてよかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの感想を書くために観点を示し、本時の学習を振り返られるようにする。 ・友だちの考えを聞いて、考えたことや思ったことも書くようにさせる。